（資料３）

令和４年度　アユ産卵場調査結果

１　目的

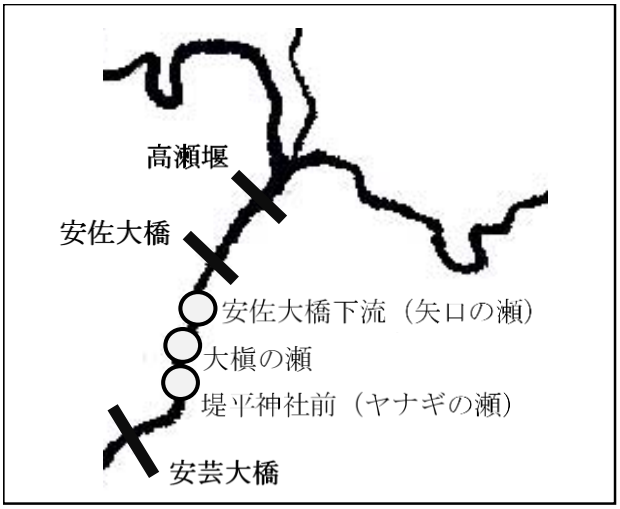
「太田川再生方針」に基づくアユ資源を増やす取組の効果を検証するため、アユ産卵場の調査を実施した。

２　実施者

・広島市経済観光局農林水産部水産課
・（公財）広島市農林水産振興センター水産部

３　調査地点

・安佐大橋下流から堤平神社前の瀬（安佐南区東野地先）まで（矢口の瀬、大槇の瀬、ヤナギの瀬）



図：調査地点

４　調査日

10 月 1 日、6 日、13 日、20 日、27 日、11 月 2 日、10 日、22 日、30 日、12 月 7 日、15 日（計 11 日）

５　調査方法

調査区間を潜水等による目視観察を行いながら、親魚の分布状況を確認するとともに、調査区間内でアユの産卵の可能性がある瀬において、産着卵の有無及び河川状況等を確認した。

図：調査の様子

６　結果

⑴　水温

大槇の瀬における水温は、例年と比べ、低めに推移していた。10 月中旬にはアユ産卵の適水温とされる 20℃を下回った。

表：大槇の瀬の水温

旬	令和４年度		令和３年度		令和２年度	
	測定日	水温（℃）	測定日	水温（℃）	測定日	水温（℃）
上旬	10/1	－	10/2	24.1	10/3	19.5
	10/6	－				
中旬	10/13	19.2	10/11	23.0	10/13	19.5
	10/20	18.1	10/19	19.1	10/20	17.5
下旬	10/27	16.2	10/29	18.0		
上旬	11/2	16.6	11/5	17.6		
	11/10	15.5				
下旬	11/22	13.8				
	11/30	13.3				
上旬	12/7	10.5				
中旬	12/15	8.7				

※令和 3 年度は 10/29 に、令和 2 年度は 10/13 に産着卵を確認

⑵　水位

渇水であった昨年度と同様に、本年度も渇水の傾向であった。

表：矢口第一水門の水位　（単位：m）

測定日	矢口第一水門観測所	令和３年度同日
10月1日	0.65	0.61
10月6日	0.68	0.57
10月13日	0.53	0.56
10月20日	0.45	0.54
10月27日	0.48	0.47
11月2日	0.42	0.44
11月10日	0.40	0.49
11月22日	0.39	0.67
11月30日	0.41	0.45
12月7日	0.40	0.47
12月15日	－	0.49

⑶　河川状況

・「大槇の瀬」においては、産卵場の整備により、河床の状況が改善された。ただし、調査の日を追うごとに再び河床が固くなっていく様子が確認された。
・「大槇の瀬」については、令和３年度に新たにもう１つの流路ができており、令和４年９月下旬の台風の影響により、この流路が拡大した。
・「矢口の瀬」について、部分的には、粒径が小さい石（砂利）で構成され、浮石状態になっている部分も確認できた。

表：河床の状況等

調査地点	河床等の状況	粒径（目視確認）	シノの貫入度	産卵の有無
矢口の瀬	大きい石も多いが、地点によっては、小砂利が堆積し、浮石状態の範囲もある。	1cm～15cm	－	無
大槇の瀬	大きい石も確認されているが、相対的には、小砂利が多く、浮石状態の範囲もある。（10/1に太田川漁協が産卵場造成を実施。）	1cm～15cm	12cm程度	無
ヤナギの瀬	大きな石が多い。	－	－	無

図：河床の状況　10 月 13 日撮影

⑷　親魚の状況

・本年度も、天然遡上が少なかったこともあり、産卵期の親魚数は非常に少ない状況であった。
・遊漁者からの聞取りによると、「大槇の瀬」の左岸側では９月下旬の台風の後、アユが多く集まっており、１人で 50～70 尾のアユを釣り上げていたとの情報がある。大雨の影響により、９月下旬頃に多くの親魚が「大槇の瀬」付近まで流されてきた可能性がある。本年度は、もともとの天然遡上数が少なかったため、例年よりも漁獲圧による影響を大きく受け、産卵に参加するまで生残できた親魚が少なかったことが予想された。
・「矢口の瀬」ではアユをほとんど確認することができなかった。
・昨年度、遊漁者が多くのアユを釣り上げていた「八丈の瀬」においても、今年度、アユは少なかった（太田川漁協からの情報）。

表：親魚分布

実施日	矢口の瀬	大槇の瀬	ヤナギの瀬
	尾	尾	尾
10/1	―	1,000	―
10/6	0	1,000	0
10/13	0	10	0
10/20	0	500	0
10/27	5	5	0
11/2	0	0	0
11/10	0	0	0
11/22	0	0	―
11/30	0	0	―
12/7	―	0	―
12/15	―	0	―

0：親魚確認できず　　―：調査未実施

図：大槇の瀬下流で釣られたアユ（9 月 28 日撮影）

図：大槇の瀬上流で群れているアユ（10 月 1 日撮影）

⑸　産卵場状況

・例年よりもかなり遅い時期まで調査を行ったものの、目視により産卵を確認することができなかった。

7　まとめ

・今年度は天然遡上数が少なかった。
・今年度は太田川漁協組合員や遊漁者による漁獲尾数が少なかった。
・９月末の大雨の影響により、出水があった。
・これらの要因が、産卵に影響を与えた可能性も考えられる。

他河川の状況（参考）

・山口県の椹野川では、９月下旬の雨の影響により、アユが下流に流されてしまった。仮にこの雨が１か月程遅ければ、産卵に寄与したと考えている（椹野川漁業からの情報）。
・山口県の錦川では、今年は産卵につながる天然アユの遡上が少なかったことから、産卵への期待が低い（錦川漁協からの情報）。

図：親魚の分布状況